

## 1. 取り組みの概要について

足助は、江戸時代には尾張・三河と信州・美濃を結ぶ「塩の道」の交通の要衝として、人や物資が往来し商業が発展した中馬街道の宿場町として栄えた地区である。街道沿いの町の中心部の古い町並みを守る景観整備事業を行っており、重要伝統的建造物群保存地区の選定をめざした取り組みを行っている。また、商店街に隣接した「香嵐溪」は紅葉のシーズンには130万人が訪れる観光地である。

伝統的な町並みを活かして、中馬のおひなさん、竹細工の灯籠を並べた情緒あふれるたんころりの夕べ、足助なつま祭りなどの既存のイベントに加え、中馬なごやか市、スタンプラリー、年末大売出しなどを行い、観光客を中心とした集客を行っている。

「あすけぬくもりコレクション」は、一店逸品運動として、現在20店舗が参加して、紹介マップを作成・配布している。今後さらに店舗を増やす予定である。

レンタサイクル事業は、香嵐溪の市営駐車場から町なかに足を伸ばす客向けに実施している。空き店舗対策事業により、店舗所有者の意向把握を行っている。

観光型の商店街とすることにより地元居住者の利便性の低下を引き起こさないよう、平成10年、地元商業者のみの出資で生鮮品や日用品を扱うスーパーを作った。当初は売上げが8億円程度だったが、現在は13億円と順調に売上げを伸ばしている。

豊田市の事業として、まちづくり交付金で下水道及び電線の地中化を行っている。



中馬のおひなさんの賑わい



たんころりん

【足助観光協会HPより】

## 2. 商店街の概要

名称	足助中央商店街協同組合
所在地	足助バス停（豊田市足助町）
会員数	132名（4商店会団体）
URL	足助商工会ホームページ <a href="http://asuke.akibito.jp/">http://asuke.akibito.jp/</a>

現在5つの商業団体があり、組合員数は132である。業種は小売業が最も多く、次いでサービス業、飲食業となっている。商店数、販売額は減少傾向にある。空き家・空き店舗基礎調査では、空き店舗が29件、駐車場に転用しているところが十数か所あることが判明した。

交通アクセスは不便で、公共交通は、豊田市中心部・岡崎市からのバスに頼るしかない。

店主の年齢構成は70歳以上が34%と最も多く、50歳以上が90%を占めている。後継者がないという回答は約4割で後継者未定も合わせると7割となる。

### 3. 取り組みに至る経緯・背景

足助町は豊田市足助町の区域で人口が1万7千人から8,900人と半減するなど、商店街の商圏が減少した。シーズンには香嵐溪の観光客が130万人も訪れているが、商業に結びついておらず、販売額や商店数は減少し、空き店舗も増加していた。

そこで、足助町商工会では、足助町中心市街地活性化基本計画を策定し、歩行空間の整備、商店街等にぎわい創出事業、空き店舗活用事業などを計画し、推進体制を検討した。

計画に基づき毎月実施されている中馬なごやか市や年1回の夏祭りは毎回多くの来街者を集めている。

その後、平成20年1月に、「足助商店街活性化計画」を策定し、空き店舗活用事業、組織強化事業などへの取り組みを計画している。

### 4. 取り組み内容

2010年で12回を迎えた中馬のおひなさんは、1999年に過疎化対策や観光客アップの目的で町内に残っていた土雛（つちびな）を集めて展示したのが始まりで、玄関や軒先に各家庭にある雛人形を展示する参加者が年々増え、現在では140軒の展示が行われている。2月初旬から3月初旬の1ヶ月間で7~8万人の観光客が訪れている。



中馬のおひなさん



中馬のおひなさん

【足助観光協会HPより】

夏祭りで飾られる「たんころりん」とは、竹かごと和紙で作った円筒形の行灯のことで、毎年8月の夜に古い町並み（約1.3キロ）の街道沿いに並べ、三州足助屋敷で漉いた和紙を通した火の灯かりで暗がりの町並みを照らし、夏夜の情緒を演出する。

竹かごは、足助の竹(真竹)を裂いてひごを作り、地元住民一人一人が手作りしたもの。平成14年から始まり、住民の方々の協力により『たんころりん』の数も800基を超え、足助の夏の風物詩として豊田市内外の方々に親しまれるようになった。



【宿場町の面影を残す古い町並み】



【季節感のあるショーウィンドウ】



【商店会マップ（田町）】



【商店会マップ（新町）】

## 5. 取り組みによる成果

- ・ AT21 倶楽部主催、足助観光協会共催の中馬のおひなさんは毎年7～8万人が訪れている。また、中馬なごやか市はチラシの効果で、年間約5～6万人の集客があり、商圈以外の方が多く訪れている。
- ・ 11月に行うスタンプラリーでは抽選で景品を送ることになっている。その景品のほとんどは商品券、宿泊券など、足助で利用するものであり、東京など県外の方にも送られている。その内90%が利用されており、リピーター創出効果を産んでいる。

## 6. 取り組みにおける課題

- ・ イベント時に大勢の来客があるが、平常時には来ていない。継続的に集客できる商店街となる必要がある。
- ・ 空き店舗は、現況調査は行った（20 数件あった）が、実際の条件交渉には応じていない。その理由として、地域外の業者が採算面だけを重視して足助に出点した場合、景気が悪くなってしまえばすぐ撤退しまう点を挙げられる。故に、採算だけで出店するのではなく、「まちに定着する事業者」として入ってもらうために、今後はその選別を商店街で行っていかねばならないと考えている。

## 7. 連携した団体、キーパーソンについて

中馬なごやか市やスタンプラリーなどは足助中央商店街協同組合、足助商工会、中馬のおひなさん、夏祭りでは足助観光協会とAT21 倶楽部などが連携している。また、キーパーソンとしては商工会の指導員であるS氏、足助中央商店街協同組合代表理事、AT21 倶楽部会長S氏らが挙げられる。